

社会学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
社会学概論	社会理論と近代	2	小松丈晃	3	火	4
社会学概論	地域ケア・システムの社会学	2	永井彰	4	木	1
社会学基礎演習	支援とケアの社会学	2	板倉有紀	3	金	3
社会学基礎演習	ロバート・A・ダールの民主制理論	2	上田耕介	4	月	2
社会学基礎演習	貧困の社会学への基礎視角	2	牛渡亮	4	月	4
社会学各論	都市社会学：まちづくりのプロローグ	2	大井慈郎	5	月	3
社会学各論	死と死にゆくことの社会学	2	田代志門	5	水	2
社会学各論	農村社会と農村社会学	2	佐久間政広	5	火	5
社会学各論	日本の思想遺産・主婦論争を読む	2	妙木忍	6	木	2
社会学各論	質的研究概論	2	徳川直人	5	水	3
社会学各論	フランス社会学史と現代思想	2	太田健児	6	水	4
社会学各論	リスクと無知の社会学	2	小松丈晃	6	火	4
社会学各論	ハーバーマスの社会理論	2	永井彰	6	水	2
社会学演習	都市社会学：まちの描き方	2	大井慈郎	5	月	4
社会学演習	リスクと不確実性の社会学	2	小松丈晃	5	火	2
社会学演習	社会問題の社会学入門	2	田代志門	6	火	2
社会学演習	社会科学のなかの社会学	2	永井彰	6	水	5
社会学実習	社会調査実習	2	田代志門	5	金	3,4
社会学実習	社会学調査実習Ⅱ	2	田代志門	6	金	3,4

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：小松丈晃（教授）

講義コード：LB32402, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会理論と近代

2. Course Title (授業題目)：social theory and modernity

3. 授業の目的と概要：

U.ベックによれば、社会学には、①理論研究、②経験的研究およびそれによる理論の吟味、そして③時代診断という三つの課題があるとされる。社会学者たちはみずからの生きる近現代社会をどんな社会として「時代診断」し、理論化し、検証してきたのだろうか。この授業では、社会学的な現代社会論を取り上げながら、現代社会の構造と変動、またそこで生きる個々人の選択やライフコースの変容について考察し、今日的な社会と個人の関係について検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This is a lecture-centered course.

According to U.Beck, Sociology must carry out the three basic tasks; (1)theoretical investigations, (2)empirical researchs and (3)diagnosis of the times. How the sociologists have "diagnosed" the modern societies and theorized? In this course, we will review the various theories of modern society and discuss the basic structures of modern society and its changes.

5. 学習の到達目標：

- ・現代社会の構造やその変動について理解できる。
- ・それぞれの現代社会論の特徴と課題について学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to help students (1) understand the structures of modern society and their changes and (2) recognize the features and problems of modern social theories.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. オリエンテーション
2. 社会の「機能分化」論の系譜
3. 近代化論の限界と世界システム論・従属理論の視点
4. グローバリゼーション
5. 再帰的近代化論／リスク社会論（1）
6. 再帰的近代化論／リスク社会論（2）
7. 「圧縮近代」の課題
8. 補論1）消費社会としての現代社会
9. 補論2）マクドナルド化する現代
10. 機能分化と個人
11. 「個人化」の諸相
12. 社会的排除と包摂—ライフコースのリスク化—
13. 「自己決定」をめぐる問い
14. グローバル化のなかの個人
15. まとめ

8. 成績評価方法：

講義終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容 40%+期末レポート 60%で評価する

9. 教科書および参考書：

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2019, 『【新版】社会学』有斐閣
参考書として、土井文博他, 2007, 『はじめて学ぶ社会学—思想家たちとの対話』ミネルヴァ書房
その他、トピックに応じて参考文献を授業の中で紹介

10. 授業時間外学習：

- ・適宜、授業において学習課題を出します
- ・また中間レポートも提出してもらう予定です

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

受講者があまりにも多い場合には、受講制限を行うことがある。

科目名：社会学概論／ Sociology (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：永井彰（教授）

講義コード：LB44102, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：地域ケア・システムの社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of Community Care System

3. 授業の目的と概要：

主として農村地域社会をフィールドとしながら、医療や福祉をめぐる地域社会の動態を地域ケア・システムの社会学として概説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the origin and the history of community care systems in rural communities to help understand the characteristics of the sociology of community care system.

5. 学習の到達目標：

地域ケア・システムの社会学について理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students understand the sociology of community care system.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 地域ケア・システムの社会学
3. 農村地域社会の社会学
4. 長野県の中山間地域における地域ケア・システムの形成 (1)
5. 長野県の中山間地域における地域ケア・システムの形成 (2)
6. 農村医療から地域ケアへ (1)
7. 農村医療から地域ケアへ (2)
8. 岩手県沢内村の 50 年を振り返る (1)
9. 岩手県沢内村の 50 年を振り返る (2)
10. 公私協働と住民参加の問題 (1)
11. 公私協働と住民参加の問題 (2)
12. 離島の地域ケア
13. 災害と地域ケア・システムの形成
14. 地域ケア・システムの社会学再考
15. まとめ

8. 成績評価方法：

講義時に毎回提示する課題提出による。

ISTU のシステムを使用する。

9. 教科書および参考書：

教室にて指示する。

10. 授業時間外学習：

講義時に課題を提示する。課題をこなすことで、授業の復習を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：板倉有紀（非常勤講師）

講義コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：支援とケアの社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of Support and Care

3. 授業の目的と概要：

本授業では、平常時ならびに災害時の支援とケアの事例を示すことで、「ジェンダー」「リスク」「社会的包摂」といった社会学のキーワードについて学ぶ。災害時、社会的に弱い立場にいる人々は、特有のニーズを持つが、そのニーズは平常時の社会の在り方と強く結びついている。基礎演習を通して、災害時の複合的なニーズについて、理論的、実践的に学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course learn specialized key words of sociology such as Gender, Risk, Social inclusion by mentioning to the cases of supports and care in normal time and disaster time. Socially vulnerable people have special needs when the natural disaster occurs and their needs are closely linked to their needs in normal time. We learn about multiple needs in time of disaster theoretically and practically in this basic seminar.

5. 学習の到達目標：

・受講生は、社会学のキーワードについて説明できる ・受講生は、統計データや英語の記事を理解できる ・受講生は自分の考えをプレゼンテーションすることができる ・受講生は、他の受講生と社会問題について議論ができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students can explain about sociological keywords, understand statistical data and english news story, present their ideas and discuss the social problem each other.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション：なぜ「支援」と「ケア」が社会学の対象になるのか

2 社会生活とジェンダー（1）：ジェンダーとは何か

3 社会生活とジェンダー（2）：日常生活におけるジェンダー

4 社会生活とジェンダー（3）：ケアと家族

5 社会生活とジェンダー（4）：ケアと男性

6 災害とジェンダー（1）：ケーススタディ

7 災害とジェンダー（2）：研究史

8 災害とジェンダー（3）ジェンダーをこえた問題

9 ジェンダーとフェミニズム、メンズリブ

10 災害時要援護者という問題（1）リスク社会論

11 災害時要援護者という問題（2）社会的排除論

12 災害時要援護者という問題（3）高齢化と医療

13 災害社会学の課題（1）

14 災害社会学の課題（2）

15 レポートの進捗の報告会

**全ての授業で学生が交代で報告を行い社会問題について議論する。

8. 成績評価方法：

報告 40%、出席 15%、レポート（ショートレポート含む） 45%

9. 教科書および参考書：

毎回資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

References are handed out at every class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

連絡先 itacie15@gmail.com

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：上田耕介（非常勤講師）

講義コード：LB41205, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ロバート・A・ダールの民主制理論

2. Course Title (授業題目)：The Democratic Theory of Robert A. Dahl

3. 授業の目的と概要：

我々が社会を研究するとき、否応なしに「民主主義」の問題に踏み込まざるを得ない。国民（住民、市民）の参加とは何か、参加は望ましいのか、いつ望ましいのか、望ましいとすればそれはなぜか。こうした問いへの答えの如何により、社会事象に対する光の当て方は異なってくるはずである。

この授業では、代表的な民主主義理論家ダールの文献をとりあげ、参加者で分担してレジュメを作成・報告し、全員で議論していく。その作業が意図することは、授業参加者各人が、ダールを参考に（あるいは批判しつつ）自らの民主主義像の探究へと踏みだす、その端緒となることである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

When studying society, we must step on the problem of "democracy" inevitably. What is the participation of citizens, whether participation is desirable, and why is it desirable? Depending on the answers to these questions, how to throw light on social phenomena should be different.

In this course, students will discuss works of Dahl, a representative democratic theorist, so that students will begin to form its own theory of democracy.

5. 学習の到達目標：

- ①ダール民主制理論の概要について説明することができる。
- ②ダール理論について、自己の立場を表現することができる。
- ③現代社会の諸問題について、民主主義の観点から考察することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students

1. explain the summary of the democratic theory of Dahl,
2. express its own opinion on Dahl's theory, and
3. explore problems of contemporary society from its own perspective of democracy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ロバート・ダールの人と学問
2. 「民主制」の世界的拡大
3. 民主制の理想①——民主的過程の規準
4. 民主制の理想②——民主制のもたらす利点
5. 民主制の理想③——本来の平等思想
6. 民主制の理想④——市民の能力
7. 民主制の現実①——ポリアーキーの特徴
8. 民主制の現実②——規模の問題
9. 民主制の現実③——多様な政治制度
10. 社会的条件①——文民統制、対外関係、文化的統一性
11. 社会的条件②——市場経済との関係
12. 将来の課題
13. 移民問題
14. 近年の動向
15. 新自由主義と民主制

8. 成績評価方法：レポート（70%）、出席および議論への参加状況（30%）

9. 教科書および参考書：

参考書

R・A・ダール『デモクラシーとは何か』（岩波書店、2001年）

その他の参考文献は授業の中で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業の中で紹介した参考文献を読み、現代社会の諸課題について民主主義という視点から考察を深める。報告担当者は、レジュメを作成する。

Students are required to read the reference materials introduced in the classroom, deepen the consideration of the issues of modern society from the viewpoint of democracy, and create a resume by turn.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：社会学基礎演習／ Sociology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：牛渡亮（非常勤講師）

講義コード：LB41404, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：貧困の社会学への基礎視角

2. Course Title (授業題目) : Basic Viewpoint for Sociology of Poverty

3. 授業の目的と概要：

日本における「子どもの貧困」が社会問題化してから 10 年が経過しました。この間、日本ではすでに克服されたと考えられていた「貧困」は、私たちの生活にかかわる今日的な課題として、再び議論の俎上に載せられることになりました。貧困は、経済学的現象であると同時に、すぐれて社会的現象でもあります。しかし、これまで社会学において、貧困研究が独立した一領域を形成してきたとは言えません。貧富の格差がますます拡大する現代社会にあつて、社会学を学ぶ私たちはどのような「貧困の社会学」を構想することができるのでしょうか。そこでこの授業では、セルジュ・ポーガムの「貧困の基本形態」に関する文献を主な手がかりとしながら、貧困と社会との関係について考察することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will understand elementary forms of poverty, and think about the relationship between poverty and society.

5. 学習の到達目標：

この授業の到達目標は、①ポーガムの提起する「貧困の基本形態」それぞれの特徴を説明することができる、②ポーガムの議論をもとに戦後の日本社会における貧困を分析することができる、③貧困問題に対するみずからの考えを他者に表現することができる、の 3 つです。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purposes of this course are to help students ①explain the characteristics of elementary forms of poverty, ②analyze the poverty of postwar Japan based on them, ③express their opinions about poverty to others.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業ごとに担当者を決めて、要点や論点をまとめたレジュメの作成と報告をしてもらいます。そのうえで、参加者全員で議論を行い、さらに理解を深めます。

01. ガイダンス

02. 貧困と社会学 ①トクヴィル

03. 貧困と社会学 ②マルクス

04. 貧困と社会学 ③ジンメル

05. 貧困と社会的関係 ①社会的紐帯

06. 貧困と社会的関係 ②説明要因

07. 貧困と社会的関係 ③類型

08. 統合された貧困 ①常態化した貧困

09. 統合された貧困 ②家族

10. マージナルな貧困 ①不可視化された貧困

11. マージナルな貧困 ②スティグマ

12. 降格する貧困 ①転落としての貧困

13. 降格する貧困 ②空間的降格

14. 降格する貧困 ③社会的孤立

15. まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポート [60%]

発表・授業への取り組み [40%]

9. 教科書および参考書：

セルジュ・ポーガム, 2016, 『貧困の基本形態 社会的紐帯の社会学』(新泉社)

10. 授業時間外学習：

議論するためには、参加者全員が教科書の該当箇所を授業前に読んでおく必要があります。

[Students are required to prepare for the assigned part of the textbook for each class.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

質問は授業終了後に受け付けます。

[Questions are accepted after class.]

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大井慈郎（非常勤講師）

講義コード：LB51307, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：都市社会学：まちづくりのプロローグ

2. Course Title (授業題目)：Urban sociology：Prologue of "MACHI-ZUKURI"

3. 授業の目的と概要：

みなさんが思い描く「良いまち」とはなんだろうか？今日、「まちづくり」は学問領域を問わず言及される言葉である。一口に「まち」といっても、「人口の集積地」、「政治・経済・文化の中心地」、「地域社会と人間関係」など、切り口は多い。

この授業では、古典から現代に至る先行研究の紹介を通じて、都市社会学および関連分野の基礎的な知見を理解することを目的とする

講義とコメントペーパーを用いた質疑応答を中心として授業を進める。「まち」のもつ論点の多様さを理解し、一人一人が自分の興味関心について考えを深める機会としたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

What is the "good city" you envision? Today, "MACHI-ZUKURI" is a word that is mentioned in any academic field. There are many perspectives on "Cities", such as "population agglomerations", "political, economic and cultural centers" and "local communities and human relations."

This class aims to understand the basic knowledge of urban sociology and related academic fields with introducing previous studies from classical to modern.

This course is centered on a lecture and a questions and answers session using the Reaction Paper. This course is to understand the various issues of "Cities" and give each student an opportunity to deepen their thoughts on interests.

5. 学習の到達目標：

1. 都市社会学の基礎的な知見を理解する。
2. 自分自身が「まち」を考える際の土台となる視点を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To understand basic knowledge of urban sociology.
2. To gain the perspective needed to consider "cities" with your own interests.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. シカゴ学派 (1)
3. シカゴ学派 (2)
4. 郊外論の展開 (1)
5. 郊外論の展開 (2)
6. 新都市社会学
7. グローバル化と都市再編 (1)
8. グローバル化と都市再編 (2)
9. 途上国都市論
10. 都市とコミュニティ (1)
11. 都市とコミュニティ (2)
12. 都市とコミュニティ (3)
13. 都市計画とまちづくり
14. 議論と総括 (1)
15. 議論と総括 (2)

8. 成績評価方法：

コメントペーパー (60%)、期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

毎回の授業でプリントを配布する。参考書は適宜紹介する。

References are handed out at every class. Recommended Readings will be introduced as appropriate.

10. 授業時間外学習：

期末レポートの作成に向けて、興味をもったトピックについて書籍や論文を探し、考察を深めておくこと。

Students need to find books and papers on topics of interest and deepen their understanding in order to prepare a final report.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田代志門（准教授）

講義コード：LB53208, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：

終末期医療に関する具体的なトピックをとりあげながら、現代社会における「死と死にゆくこと」に関する諸問題を「人と人との関係性」という視点から検討する。また、受講生には、授業で学んだことを活かして死に関わる現代的現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from sociological perspectives.

5. 学習の到達目標：

終末期医療の現場で生じている倫理的・法的・社会的問題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The aim of this course is that students think about issues regarding death and dying from sociological point of view.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 授業の進め方について
- 2 現代社会における死
- 3 死の社会学の系譜
- 4 死の自己決定権の社会学 (1)
- 5 死の自己決定権の社会学 (2)
- 6 死の自己決定権の社会学 (3)
- 7 死の自己決定権の社会学 (4)
- 8 終末期ケアの社会学 (1)
- 9 終末期ケアの社会学 (2)
- 10 終末期ケアの社会学 (3)
- 11 死生観の社会学 (1)
- 12 死生観の社会学 (2)
- 13 死生観の社会学 (3)
- 14 まとめ (1)
- 15 まとめ (2)

8. 成績評価方法：

授業への取り組みと課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016年）

10. 授業時間外学習：

適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester : 5, 単位数 : 2

担当教員：佐久間政広（非常勤講師）

講義コード：LB52505, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：農村社会と農村社会学

2. Course Title (授業題目) : Rural communities and rural sociology in Japan

3. 授業の目的と概要：

本講義では、農村社会を理解するための基礎的な視角、および農村社会の歴史的变化に関する知見を社会学の見地から提供するとともに、農村社会学の誕生と展開について講ずる。あわせて今日の農山村社会の直面する諸問題、とりわけ過疎高齢化の深刻な山村の諸問題に関して理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provide an overview of the hisitory of the development of rural sociology to help students understand the historical changes of rural communities in Japan.

5. 学習の到達目標：

- ①日本農村を理解するために必要な概念である家と村の基本的な特質について説明できる。
- ②日本における農村社会学の成立と発展の概略について説明できる。
- ③日本における農村社会の歴史的变化について大まかに説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students explain the hisitory of the development of rural sociology and the historical changes of regional communities in Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下の通りである。 .

- 1 オリエンテーション
- 2 家とは何か
- 3 村の仕組み
- 4 日本農村社会学の成立
- 5 鈴木栄太郎の自然村理論
- 6 有賀喜左衛門の家連合理論
- 7 竹内利美の講・組・年序階梯組織論
- 8 細谷昂の農村研究①：普遍的認識をめざす事例研究
- 9 細谷昂の農村研究②：家と村を歴史的に捉える
- 10 細谷昂の農村研究③：稲作経営から家と村をみる
- 11 高度成長期以前の農村社会
- 12 農業の近代化と農村社会
- 13 今日の農村社会
- 14 高齢者と農村
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書として、細谷昂『現代と日本農村社会学』1998年、細谷昂『家と村の社会学—東北水稲作地方の事例研究—』2012年 [No textbooks will be used. Students should take notes on their own.]

10. 授業時間外学習：

新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。 [Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

Semester : 6, 単位数 : 2

担当教員：妙木忍 (非常勤講師)

講義コード：LB64211, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む

2. Course Title (授業題目) : Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy

3. 授業の目的と概要：

本授業では、日本の社会史的変遷を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライスコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purpose of this course is to give an overview of socio-economic change in Japan and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite also concerning men and wider society, and why controversy regarding women's choice of life course continues even as the era and talking points change.

5. 学習の到達目標：

日本における社会史的変遷やジェンダー規範の変容について理解する。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身に付ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course is designed to help students understand socio-economic change and the transformation of gender norms in post-war Japan. It aims to help students think about issues of concern to them, to pose their own questions about those issues, and to solve

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。
内容および進度は以下の通りである。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 家族の戦後体制と統計データ
- 第3回 主婦論争とは何か
- 第4回 第1次主婦論争 (1950年代)
- 第5回 第2次主婦論争 (1960年代)
- 第6回 第3次主婦論争 (1970年代)
- 第7回 第4次主婦論争 (1980年代)
- 第8回 第5次主婦論争 (1990年代)
- 第9回 第6次主婦論争 (2000年代)
- 第10回 主婦論争の通時的分析
- 第11回 日本におけるジェンダー規範の変容
- 第12回 家族をめぐる今日的課題
- 第13回 発表と討論①
- 第14回 発表と討論②
- 第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

授業への関与度 (15%)、出席 (15%)、発表 (20%)、レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.

10. 授業時間外学習：

授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。

Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

Students will be requested to complete a Response Card at the end of each class.

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：徳川直人（非常勤講師）

講義コード：LB53311, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：質的研究概論

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Qualitative Inquiry in Sociology

3. 授業の目的と概要：

社会学における質的方法の理論と方法について学ぶ。参加者は教材を読み、資料収集や日常観察などの実践を試みることで、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will learn some methods and theories in sociological qualitative inquiry in introductory lectures, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection and observation in everyday life.

5. 学習の到達目標：

- 1) 質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界が理解できるようになる。
- 2) フィールドワークやインタビューを初歩的な形で実践できる基礎素養が身につく。
- 3) 調査のモラルと倫理、責任について考慮できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Through this course students will become able to 1) understand fundamental methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits, 2) acquire background knowledge to conduct some fieldwork or interview in elementary form, and 3) c

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

1. 質的分析法入門
2. 感受概念
3. 方法としてのフィールドノート
4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
5. 聞き書き
6. インタビュー
7. 自然主義的観察
8. 参与観察
9. グラウンデッドな接近法
10. エスノメソドロジー
11. エスノグラフィー
12. 事例分析とモノグラフ
13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
14. アクション・リサーチ
15. 調査倫理

8. 成績評価方法：

平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。

9. 教科書および参考書：

エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

Books and papers will be introduced in class, such as Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et.al. (1995), Dictionary of Qualitative Inquir

10. 授業時間外学習：

各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

Students are required preparatory readings and some home works.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

ISTUにて読み物等を閲覧し学期末レポートを提出する。質問ややむをえない欠席連絡のためメールを随時利用してよい。

ISTU is available to share text or material and submit term paper. Students can use email to send questions or notify unavoidable absence.

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：太田健児（非常勤講師）

講義コード：LB63402, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：フランス社会学史と現代思想

2. Course Title (授業題目) : History of French Sociology and Contemporary Thought

3. 授業の目的と概要：

フランス社会学史を理解しその今日性を検討する。現代は各学問分野がそれぞれ越境する状況がさらに加速しており、狭隘な社会学理解に止まることなく、そのような越境模様をきめ細やかに辿っていくことが最重要である。これが、現代社会の諸問題に対するより適切な診断と処方とを可能にし、社会学のディシプリン再生につながる。それゆえ授業は、まずフランス社会学史を当時の社会背景との絡みで見直しながらも、今日の問題とリンクさせ、フランス現代思想のいくつかの越境を見極めていく作業とし、最終的には社会学のディシプリン再生に収斂させた議論にしていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course addresses the history of French sociology and considers its modern-day relevancy. In recent years, various fields of study are intertwining at an accelerated pace. It is of the utmost importance to avoid a narrow view of society while carefully analyzing the ways in which various fields are overlapping. This approach to modern day problems allows for optimal diagnosis and solution development, and leads to the energization in the sociological discipline.

Therefore, this class will review the history of French sociology in light of its historical background while linking it to many problems we face today. We will take an interdisciplinary look at a few particular files, and discuss how our findings are convergent with generating sociological discipline.

5. 学習の到達目標：

1. フランス社会学史及びフランス現代思想の基本理論を理解する。
2. 社会学理論誕生の社会的背景と結びつけて社会学理論を理解する思考術を身につける。
3. 古典的理論が現在の問題解決にどのように寄与できるのか、その今日性を考える。
4. 各分野がこれまで越境しながら自らのディシプリンを形成し、今日もそれが続いている状況も理解する。
5. 最終的に社会学分野独自のディシプリンの在り方を考えていく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To acquire a basic understanding of French sociological history theory and contemporary French thought
2. To connect our findings with the historical context of birth of sociological theory and to develop the thinking skills necessary to understand soc

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下に示す授業内容を講義・テキスト講読・ディスカッションなどを組み合わせて行います。進度、授業内容に関しては、受講生の皆さんの意見を尊重し適宜調整します。

- 1 社会学史研究の意義
- 2 フランス社会学史(1) ー実証主義の再検討の立場から：コント〜デュルケム以前ー
- 3 フランス社会学史(2) ー政教分離と社会思想ー
- 4 フランス社会学史(3) ー社会思想から社会学へ：デュルケム『社会学的方法の規準』の誕生とその周辺
- 5 フランス社会学史(4) ーデュルケム社会学の問題：社会实在論論争
- 6 フランス社会学史(5) ーデュルケム『社会分業論』における人格概念
- 7 フランス社会学史(6) ーデュルケムのモラルサイエンスと社会学
- 8 フランス社会学史(7) ー『宗教生活の原初形態』から宗教社会学へ
- 9 現代思想と社会学(1) ー R. ベラー以降の市民宗教論とその現在ー
- 10 現代思想と社会学(2) ーボランティア不要論・偽善論とモースの贈与論ー
- 11 現代思想と社会学(3) ー社会運動・学生運動を知らない若者たちと A. トウレーヌ以降の社会運動論ー
- 12 現代思想と社会学(4) ーフォーコーの今ー
- 13 現代思想と社会学(5) ーエビステモロジーと社会学ー
- 14 現代思想と社会学(6) ー先端社会論としての社会学的ディアボリズム論ー
- 15 社会学のディシプリン再生に向けて

8. 成績評価方法：

授業への取り組み 50% レポート 50%

9. 教科書および参考書：

教科書 各テーマに合わせてプリント・資料を前の授業時間内に配布する。

Handouts will be distributed in the class

参考書 デュルケム、菊谷和宏訳『社会学的方法の規準』。その他、各社会学者の原典(翻訳可)及び研究書。

Durkheim, The Rules of Sociological Method.

Reading fundamental literatures of famous sociologists and philosophers is str

1 0. 授業時間外学習：

学術論文、書籍、新聞・雑誌、ネットなどから授業内容に関する知識、情報、知見を貪欲に収集すること。

Students are recommended to acquire the knowledge, information and opinion related to the subject matter by using the articles, the journals, the books, the newspapers, the periodicals and the internet.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

一見すると古色蒼然たる授業内容に思えるかもしれませんが、それらを通した議論の中から今日性つまり問題解決理論としての有効性を摘出するようにします。

At first glance, the material covered in this class may appear to be ancient. However, as we discuss the material, we will look at how parts of the material can be effective r

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：小松丈晃（教授）

講義コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and non-knowing

3. 授業の目的と概要：

講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.

5. 学習の到達目標：

・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会論再考—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳（1）
6. リスクと道徳（2）
7. リスク社会と信頼（1）
8. リスク社会と信頼（2）
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（1）
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（2）
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と平常点 40%+学期末のレポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、必要なものを適宜指示する

10. 授業時間外学習：

授業において、適宜、学習課題を出す予定
中間レポートも提出してもらいます

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学各論／ Sociology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：永井彰（教授）

講義コード：LB63208, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論

2. Course Title (授業題目) : Social Theory of J. Habermas

3. 授業の目的と概要：

ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.

5. 学習の到達目標：

ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ハーバーマス研究の視座と方法
3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
10. コミュニケーション行為概念の再規定
11. 生活世界論の再構成
12. 生活世界とシステム
13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
14. 再構成的社会学の可能性
15. 講義のまとめ

8. 成績評価方法：

(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]

9. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。

10. 授業時間外学習：

授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：大井慈郎（非常勤講師）

講義コード：LB51404, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：都市社会学：まちの描き方

2. Course Title (授業題目)：Urban sociology: How to sketch cities

3. 授業の目的と概要：

「都市」は都市祭礼、都市空間、生活様式、コミュニティ、グローバル化、社会的公正、景観、格差など、様々な角度から論じられてきた。

この授業では、古典・現代の論文を読み進めることで、都市社会学の基礎的な知見を学ぶことを目的とする。

毎回、都市社会学の論文を取り上げ、その内容の概要、用いられている方法について、担当の受講生に報告してもらう。その報告をもとに、受講生全体でディスカッションを行う。一人一人が自分の興味関心について考えを深める機会としたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The theme "city" has been discussed from various angles, such as festivals, urban space, lifestyle, community, globalization, social justice, landscape, and inequality.

In this course, students read classic and modern papers to learn basic knowledge of urban sociology.

In every class, an assigned student gives presentations on urban sociology paper. Based on the presentation, students discuss the results and methods of the study. This course is to give each student an opportunity to deepen their thoughts on interests.

5. 学習の到達目標：

1. 都市社会学の基礎的な知見と文献を読む力を身につける。

2. 「都市」というテーマの、多彩な論点とその分析方法について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. To acquire basic knowledge of urban sociology and develop reading skills.

2. To understand the various issues of the theme of "city" and how to analyze them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. ねぶた祭りから考えるまち

3. シカゴ学派 (1)

4. シカゴ学派 (2)

5. シカゴ学派 (3)

6. シカゴ学派 (4)

7. 新都市社会学 (1)

8. 新都市社会学 (2)

9. 地方交通から考えるまち

10. 様々な都市論 (1)

11. 様々な都市論 (2)

12. 様々な都市論 (3)

13. 様々な都市論 (4)

14. 様々な都市論 (5)

15. 議論と総括

8. 成績評価方法：

授業での報告 (40%)、授業への積極的な参加 (30%)、期末レポート (30%)。

9. 教科書および参考書：

毎回の授業でプリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：

毎回、課題論文を事前に読んで授業に臨むこと。担当の回は、レジユメを作成する。

Students are required to prepare for the designated paper for each class. You need to write a resume for your assigned paper.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：小松丈晃（教授）

講義コード：LB52212, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and uncertainty

3. 授業の目的と概要：

不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つと目されるようになってきている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかに関論じうのかを探してみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

"Risk" and "uncertainty" are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern society which has become a "risk society" through doing a close and careful examination of the text: "The Risk Society Revisited: Social Theory and Governance" by Eugene A. Rosa, Ortwin Renn, and Aaron M. McCright.

5. 学習の到達目標：

- ・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する
- ・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The main goals of the course are:

- (1) Students will develop the reading skills to understand the sociological English texts
- (2) Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. リスク論の社会(科)学的基础(1)
3. リスク論の社会(科)学的基础(2)
4. リスクと社会理論(1)
5. リスクと社会理論(2)
6. リスクと社会理論(3)
7. リスクと社会理論(4)
8. システミックリスクの出現
9. リスクの類似概念：複雑性、不確実性、多義性
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクガバナンス：分析的-熟議的過程(1)
13. リスクガバナンス：分析的-熟議的過程(2)
14. 結論
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席 50%と毎回の報告内容 50%による。

9. 教科書および参考書：

Eugene A. Rosa, Ortwin Renn, and Aaron M. McCright, 2014, "The Risk Society Revisited: Social Theory and Governance", Temple University Press.

Taylor-Gooby, P. & J. Zinn, 2006, "Risk in Social Science", Oxford University Press.

J. O. Zinn, 2008, "Social Theories of R

10. 授業時間外学習：

受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：田代志門（准教授）

講義コード：LB62210, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会問題の社会学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Sociology of Social Problems

3. 授業の目的と概要：

社会問題の社会学における構築主義的アプローチに関する古典的著作の精読を通じて基本的な考え方を学ぶ。また併せて近年の具体的な研究例を批判的に吟味し、本アプローチによる研究の課題と可能性を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of the sociology of social problems.

5. 学習の到達目標：

- (1) 社会問題の社会学における構築主義的アプローチを理解する
- (2) このアプローチを用いた研究計画の立案が可能になる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of this course is that students understand social constructionist approaches to social problems.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. 社会問題の社会学とは (1)
3. 社会問題の社会学とは (2)
4. 社会問題の社会学とは (3)
5. 『社会問題の構築』を読む (1)
6. 『社会問題の構築』を読む (2)
7. 『社会問題の構築』を読む (3)
8. 『社会問題の構築』を読む (4)
9. 『社会問題の構築』を読む (5)
10. 『社会問題の構築』を読む (6)
11. 研究例の検討 (1)
12. 研究例の検討 (2)
13. 研究例の検討 (3)
14. 研究例の検討 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

J. I. キツセ&M. B. スペクター『社会問題の構築』（マルジュ社、1990年）

赤川学『社会問題の社会学』（弘文堂、2012年）

中河伸俊・赤川学編『方法としての構築主義』（勁草書房、2013年）

10. 授業時間外学習：

毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学演習／ Sociology (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：永井彰（教授）

講義コード：LB63504, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会科学のなかの社会学

2. Course Title (授業題目) : Sociology in Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

通常のばあい、社会学の歴史は、オーギュスト・コントから語られる。そして、他の社会科学から切り離された独自の専門科学として、取り扱われる。しかし、いうまでもなく、社会学は、社会科学が展開するなかで、その一領域として分化した。社会学にも、社会科学の発展史という共通の根がある。

この授業では、内田義彦や大塚久雄の著作を手がかりにしながら、社会科学のなかで社会学はどのような位置を占めるのかを考えるとともに、社会科学的な思考法について考察を深めることにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will understand the position of sociology in the social sciences and the method of the social science by reading Yoshihiko Uchida's work and Hisao Otsuka's work.

5. 学習の到達目標：

社会科学の展開史のなかに社会学を位置づけることができるようになる。

社会科学に共通する思考法を理解できるとともに、社会学独自の発想法とは何かを理解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help understand the logic and method of social science and sociology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業のガイダンス

2. 『社会認識の歩み』問題と方法／生活現実と社会科学／「方法論」とメソドロジー／社会科学の言葉

3. 『社会認識の歩み』運命へのチャレンジ

4. 『社会認識の歩み』国家の制作 (1)

5. 『社会認識の歩み』国家の制作 (2)

6. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (1)

7. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (2)

8. 『社会認識の歩み』学問総合化の二つの道

9. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (1)

10. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (2)

11. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (3)

12. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (4)

13. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (1)

14. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (2)

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

(レポート (50%) 授業時の受講票提出 (50%))

9. 教科書および参考書：

内田義彦『社会認識の歩み』岩波書店、1971年。

大塚久雄『社会科学の方法——ヴェーバーとマルクス』岩波書店、1966年。

10. 授業時間外学習：

授業時間前に、各自テキストを読む。

講義での討議や解説をふまえて、各自テキストを読み直す。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田代志門（准教授）

講義コード：LB55304, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目) : Social Research Methods

3. 授業の目的と概要：

社会調査の概要（意義、種類、方法、歴史、課題、技法等）を網羅的に学ぶとともに、後期に予定されている調査実施に向けた準備作業を行う。特にインタビュー調査の技法については模擬インタビューの実施を含め集中的に学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to plan and conduct social research by themselves.

5. 学習の到達目標：

- (1) 社会調査の方法と論点を理解する。
- (2) 社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。
- (3) インタビュー調査の技法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop basic skills for planning and conducting social research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 社会調査とは
- 2 研究計画とは
- 3 社会調査の方法 (1)
- 4 社会調査の方法 (2)
- 5 社会調査の方法 (3)
- 6 社会調査の方法 (4)
- 7 社会調査の方法 (5)
- 8 調査倫理
- 9 問題の設定 (1)
- 10 問題の設定 (2)
- 11 既存の調査の検討 (1)
- 12 既存の調査の検討 (2)
- 13 仮説の構成 (1)
- 14 仮説の構成 (2)
- 15 調査対象の選定

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

佐藤郁哉『社会調査の考え方 (上)』(東京大学出版会、2015 年)

10. 授業時間外学習：

グループ単位でそれぞれが調査の全過程の作業を行うため、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学実習／ Sociology (Field Work)I

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時. 後期 金曜日 4 講時

Semester : 6, 単位数 : 2

担当教員：田代志門（准教授）

講義コード：LB65304, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：社会学調査実習 II

2. Course Title (授業題目) : Social Research Methods II

3. 授業の目的と概要：

質的データ分析法について理解を深めるとともに、前期で行った予備作業を踏まえて調査を実施し、調査結果の分析を行い、調査報告書を作成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to plan and conduct social research by themselves.

5. 学習の到達目標：

- (1) 質的データの分析法を身につける。
- (2) 設定したテーマについて社会調査を実施し、その分析を行えるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop basic skills for planning and conducting social research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 調査の企画
- 2 調査項目の設定 (1)
- 3 調査項目の設定 (2)
- 4 インタビューの実施 (1)
- 5 インタビューの実施 (2)
- 6 質的データ分析法 (1)
- 7 質的データ分析法 (2)
- 8 質的データ分析法 (3)
- 9 調査結果の整理・分析 (1)
- 10 調査結果の整理・分析 (2)
- 11 調査結果の整理・分析 (3)
- 12 調査報告書の作成 (1)
- 13 調査報告書の作成 (2)
- 14 調査報告書の作成 (3)
- 15 調査報告 (口頭発表)

8. 成績評価方法：

成績評価の方法：授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

ウド・クカーツ著（佐藤郁哉訳）『質的テキスト分析法』（新曜社、2018 年）

10. 授業時間外学習：

グループ単位でそれぞれが調査の全過程の作業を行うため、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

